

今回の折高AL通信は、商業と英語の授業実践の紹介です。この授業実践に共通しているのは、生徒一人一人の学ぶ意欲を引き出す手立てが工夫されていることです。以下の授業紹介①では、ICTの効果的な活用を通して授業目標に沿った学習課題に取り組みさせることで生徒の考えを引き出し、授業紹介②では、生徒が取り組みたくなるようなパフォーマンス課題とルーブリックの活用を通して深い学びにつなげていました。以上の取組を成功させた要素の一つに、生徒の「主体的に学習に取り組む態度」の醸成があるのではないのでしょうか。生徒の「粘り強さと自己調整（主体的に学習に取り組む態度の評価の視点）」を見取るためには、単元や単元のまとまりを通して学習課題（パフォーマンス課題）を与え、「粘り強さと自己調整」を発揮する場面を意図的・計画的につくる必要があります。そのためにも、教師同士の対話（教科部会等）を通してよりよいものを創造する営みが大切だと考えられます。

## 1 授業紹介①（商業）

1年生の簿記の授業において資格取得を目指すとともに、商業科目を初めて学習する生徒たちが「簿記を好きになる」ことを目標として、「学びあう簿記の授業」をテーマに1年間取り組んできました。新たに学習したことを既習の知識とつなげてアウトプットできる喜びや、他者の考えに触れることによって学びを深め、学ぶ楽しさを生徒が感じることができるよう、以下のような活動を行いました。

### ① スプレッドシートを活用して意見を共有

与えられた学習課題について全員がスプレッドシートに意見を入力し、その後テキストマイニングで全体の意見を即時に表示してクラス全体で共有しました。授業後のアンケートでは「この活動で Chromebook を活用することが有効であると感じたか」という質問に対して「はい」と答えた生徒が100%であり、理由として「全員の意見を見ることができて時間の削減にもなるし、視野が広がって今までになかった発見があるから」「発表よりも緊張せずに自分の意見を表現できたから」などの意見がありました。



スプレッドシートの内容をテキストマイニングに入力することで、クラス全体の意見を可視化！！



### ② グループでミッションにチャレンジ

4人グループを作り、既習の内容について出題されたクイズにチャレンジしました。用意した課題は、一問一答形式ではなく、重要語句の意味を説明する形式としました。既習の内容を自分の言葉で他者に説明し、また他者の考えを聞くことで理解を深め、今後の学習につなげることを目

指しました。



## 2 授業紹介②（英語）

Lesson6「Machu Picchu（謎を秘めた世界複合遺産マチュ・ピチュ）」の学習のまとめとして、単元導入時に示していたパフォーマンス課題「Let's introduce your favorite World Heritage Site in Japan to foreigners!!」の発表を行いました。デリバリー（人に伝える視点）を明確にしたルーブリックを生かして、事前に生徒たちに「発表の際に大切にすべきポイント」を示していました。グループごとの発表では、そのルーブリックの視点に沿って他班の発表を聴いたり、自分たちの発表を客観的に振り返ったりすることで、生徒たちは学びを深めていました。



清水寺について紹介している場面



パフォーマンス課題の達成に向けて「教科書の本文を活用する」という意識をもって、生徒自身が本文理解を心掛けた点が最終的に「生きた英語学習」につながりました。また、ルーブリックを活用することで、生徒に対して重点項目の意識付けであったり、授業中の説明等も聞き逃さないようにする姿勢を促したりと「学びへの自覚」の醸成につながりました。